

2人の著書を海外に紹介

伊那食品工業の塚越会長・須坂出身の竹内東大名誉教授

日本の書籍を英訳して海外に紹介する首相官邸国際広報室の事業で、第1弾として伊那食品工業(伊那市)の塚越寛会長(77)が自身の経営の考え方を記した「リストラなしの『年輪経営』」(光文社、2009年)と、須坂市出身で東大名誉教授、鎌倉女子大教授の竹内整一さん(68)「東京都」の「花びらは散る 花は散らない」(角川選書、11年)など5冊が選ばれた。欧米を中心とする大学や図書館などに贈られる。

選定委員は井辻朱美・白百合女子大文学部教授、県文化振興事業団理事長の近藤誠一・前文化庁長官ら7人。同室によると、塚越会長の本は「日本的経営の一つの姿を具体的に示す」などと評価された。



竹内整一さん

首相官邸事業「日本的経営」「無常」を英訳

塚越会長は「木の年輪のような着実な成長」「利益は目的ではなく、皆が幸せになるための手段」といった持論の方向に時代が変わりつつあるとし、「この変化を選者の方々が感じ取ってくれたのではないか」。海外で紹介されることについて、「外国の人が日本企業へのイメージを改め、自分の国の中小企業を見直すきっかけになればうれしい」と話している。

竹内さんは倫理学・日本思想史が専門で、東大大学院での最終講義や講演などをまとめた本が選ばれた。近代日本の仏教思想家、金子大栄の言葉をめぐる考察が中心で、日本思想の底流にある「無常」の意義を明らかにしようとした。

「『無常』には、はかないものや有限性を豊かさとして受け取るという前向きな意味がある。環境問題が深刻さを増す世界で、ますます大事になると思う」と話している。竹内さんは09、11年、本紙文化面に思索のノート「やまと言葉の倫理学」を計24回連載し、これを基に12年、「やまと言葉で哲学する」(春秋社)を刊行した。

他の3冊は、ロジャー・パルバース「もし、日本という国がなかったら」▽大木聖子「地球の声に耳をすませて 地震の正体を知り、命を守る」▽佐々涼子「紙つなげ! 彼らが本の紙を造っている」



英訳本を手に語る塚越会長